

#### 4. ケアラー同士が交流・情報交換できる場の設置

##### (1) ケアラーズカフェ等の運営支援

施策内容	実施状況・今後の予定	事業の進捗状況 ○(概ねできている) △(準備中) ×(要検討・未着手)	方向性 →(継続) △(変更) - (終了)
①ケアラーズカフェや地域ボランティア主体のまちなかカフェについて、運営主体と意見交換を積極的に行い、持続可能な運営を支援します。	コロナ禍も落ち着き、事業再開しているが、利用者が伸びてない。カフェの在り方について今後も運営主体と意見交換を積極的に行っていく。	△	→
<b>評価（意見・要望）</b>		<b>施策の方向性</b>	
<p>施策内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 訪れる人を特定せず幅広く利用者に呼びかける必要</li> <li>・ ふれあいサロンにケアラー相談員を常駐させることは賛同するが、空き家や個人宅の活用も検討して、子ども食堂のケアラー版を模索しては。</li> <li>・ カフェの在り方 利用者のためにも改善に向けて動いてほしいです。</li> <li>・ コロナ5類へ移行後は制約が少なくなり活動しやすい環境になると思うので、今後に期待します。</li> <li>・ ヤングケアラーは他人を気にしているのではないか。</li> </ul>		<p>ケアラーズカフェは、様々な人が集うコミュニティカフェの機能を持つ拠点になります。常連客以外の新規来客者がリピートしやすい環境づくりは、課題として受け止めております。利用しやすい環境づくり等については検討いたします。</p> <p>子ども食堂の設置は、ヤングケアラーの支援につながる可能性があることから、今後の施策の参考にさせていただきます。</p>	

(2) ふれあいサロン等の充実と推進

施策内容	実施状況・今後の予定	事業の進捗状況 ○(概ねできている) △(準備中) ×(要検討・未着手)	方向性 →(継続) △(変更) -(終了)
多世代の方が利用できるようカフェ利用者などのニーズに基づく施設環境の整備を進めます。	現在は8カ所でサロンの開催をしているが、コロナ禍により再開ができていない地域もある。再開や地域拡充を目指し活動していく必要がある。	△	→
<b>評価(意見・要望)</b>		<b>施策の方向性</b>	
施策内容 ・町内の現状からみて多世代ではなく高齢者中心に考えてもいいのではないのでしょうか。		サロン・カフェの在り方は対象者を含めて、その内容の充実を検討するのに併せて、地域拡充の取り組みを続けていく予定です。	

5. 障がい者及び子育て支援の充実化（障がい者及び子育て分野は、既存施策にて一括評価）

（1）障がい者の支援

施策内容	実施状況・今後の予定	事業の進捗状況 ○(概ねできている) △(準備中) ×(要検討・未着手)	方向性 →(継続) △(変更) -(終了)
①一人ひとりのニーズ・課題に的確に対応するため、総合的・専門的な相談支援機関(地域生活支援拠点)を設置し、安心して相談ができる体制を作ります。	・相談支援体制機関の整備は、広域整備が進まないこと等から町単独で実施することを選択した。今後、R5を整備、R6開始を目指し、内容の精査と体制整備を行うとともに、民間企業による「指定相談支援事業所」の設置についても検討を行う。		
②身近な相談窓口として、民間事業所による「指定相談支援事業所」の立ち上げを積極的に支援します。	・社会福祉士の採用により、支援体制の充実を図ることができ、一人ひとりに対する支援の充実につながった。		
③社会福祉士、保健師、精神保健福祉士、障がい者相談員(身体・知的)等と連携により、きめ細やかな支援の充実を図ります。	・新型コロナの影響も一段落したこともあり、家族会との連携により、理解啓発の場としての講演会を実施することができた。	○	→
④ピアサポート、相談会事業の充実のため、精神障がい者家族会よつば会と連携し、当事者・家族相互の情報交換や相談会等の取り組みを推進します。			

評価（意見・要望）	施策の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者や障害者を支える介護関連の方や施設では、支援計画を作成したり検討したりする際に、対象者のなかに子どもの有無を確認してみるのもよいでしょう。子どもがいる場合にはヤングケアラー化していないか観察したり、目配りしたりすることで問題の顕在化を図れる可能性もあります。</li> <li>・施策内容、実施状況 あまりよくわからない項目なので資料、研修会、報告会など参考になるものがあれば良いと思います。</li> </ul> <p>指定相談支援事業所の設置を望むところです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉士の採用により相談できる内容の幅が広がったと実感しています。また、提案もして頂けて、大変ありがたく思っています。</li> <li>・障がい者が支援を受けやすい体制と相談支援体制の整備が肝要。</li> <li>・今後ともよろしく願いいたします。伊達市のようにハンデのある方が周りの目を意識せず町内を歩ける栗山町であってほしい。</li> <li>・ありがとうございます。継続を続けていただきたいです。</li> <li>・家族会などと連携し、障がい者(児)の世帯が何を求めているかを調査してはどうか。例えば 働く場所が欲しい ボランティア活動がしたい 周りの理解が欲しい</li> </ul>	<p>引き続き、相談支援機関（地域生活支援拠点）の整備や民間事業者による「指定相談支援事業所」の立ち上げの支援を行い、安心して相談できる体制づくりの充実を図ります。また、専門職員の配置と連携による支援体制づくりを継続して実施するとともに、ピアサポートの充実、家族会との連携強化を行い、情報交換や相談会など支援の充実を図ります。</p>

(2) 子育ての支援

施策内容	実施状況・今後の予定	事業の進捗状況 ○(概ねできている) △(準備中) ×(要検討・未着手)	方向性 →(継続) △(変更) - (終了)
①妊娠期から子育て期にわたる様々な問題に対して、子育て世代包括支援センターにおいて、保健・福祉が連携して切れ目ない相談支援体制の構築を目指します。	令和4年度の出生数は36名。減少傾向ではあるが、支援が必要な妊婦・家庭は増えているため、妊娠期から関係性の構築に今後も取り組んでいきます。		
②就学前の特別な配慮と支援が必要な子どもに対して、子ども発達サポートセンターを中心に他の通所施設・保育園・認定こども園と連携し、子どもの特性に応じた支援を行うとともに、子どもの発達の基盤となる家庭支援を実施します。	R4年度は就学前の幼児45名、小学生以上の学童33名を対象に個別・小集団指導を実施。配慮が必要な子どもが年々増える中、今後も定期的に見たたちが通う機関に訪問し、支援の充実を図っていきます。	○	→
③子どもや保護者が安心して学童期を迎えるために、保育園等から小学校への円滑な引継ぎが行われるよう支援します。また、各放課後児童クラブにおいて障がい児の受け入れを行います。	令和5年度栗山学童クラブ在籍数は106名。新1年生は30名の児童が入会予定であることから、関係機関と児童に関する引継ぎを丁寧に行い、安心して過ごせる場の提供に努めます。		
④ファミリーサポートセンター事業により、子どもを安心して預け、保護者がリフレッシュすることができる環境作りを推進します。	令和5年4月より、新規事業として母子手帳交付時に20時間分の無料券を配布し、家事・育児のサポートをより強化します。		

評価（意見・要望）	施策の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 孤立する妊産婦や学童クラブの子供たちの拡充とフォローは必要ですが、ケアラー支援策とは少し性格が違うのではないか。フルカバーしたいとの意図はわかるがあまり広げると消化不良になりませんか。</li> <li>・ 栗山町は妊娠期から子育て支援をしていて、子育てしやすい環境づくり。実際に役立っていると思います。</li> <li>・ 子供たちが安心できる、信頼できる場所づくりは、片親世帯、共稼ぎ世帯など親目線でもとても有り難く、今後も児童数は減少しますが、支援の充実が大切と思います。</li> <li>・ 子育て支援は国の施策で、人口増加に資するので充実させるべきです。</li> <li>・ 出産費用の全額補助、2人目からの出産祝金の創設をしていただきたい。</li> <li>・ 行政には地域担当保健師がおり妊娠から出産・子育ての支援を行っておりますそこで、この保健師を中心に町内会・民生委員・社協などが日常的に情報の交換を行い行政だけでなく地域の役割を一緒に考えていく。</li> <li>・ これからの子どもたちの成長については各関係機関（支援センター・保育園・認定こども園・児童クラブ当）との連携の一層の充実がとても大切である。</li> </ul>	<p>身近に相談者がおらず、育児等に対して不安・負担を抱えている妊産婦、育児と介護のダブルケア、または幼いきょうだいの世話等のため子どもらしい生活を送ることができないヤングケアラー等に対して、今後も妊娠期からの相談支援の充実や各支援関係機関との連携に努めてまいります。</p>

## 6. 国、道、関係市町村への情報発信及び要望

### (1) 国、道、関係市町村への情報発信及び要望

施策内容	実施状況・今後の予定	事業の進捗状況 ○(概ねできている) △(準備中) ×(要検討・未着手)	方向性 →(継続) △(変更) - (終了)
<p>本町が進めるケアラー支援について、他の自治体に情報発信し連携を図ります。また、ケアラーを支援するための法律の制定や財政的な支援について、国や道に要望します。</p>	<p>北海道ケアラー有識者会議に参加し、町の実情や要望、財政的支援について等の情報発信を行った。</p>	<p>○</p>	<p>→</p>
<b>評価（意見・要望）</b>		<b>施策の方向性</b>	
<p>施策内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域と北海道が連携しての取り組みは今後の力となりますので、進めてください。</li> <li>・ ケアラー支援に早くから取組、外部からも注目されていることはいいことと思います。</li> <li>・ ご提案ですが、次年度の予定4項目を1委員がすべて検討していくのではなく、事業所選出の委員は《仕事と介護の両立》、教育関係選出の委員は《ヤングケアラー施策》、団体・自治会の選出委員は《シンポジウム・学習会の実施》というように、検討する項目を絞って進めてはどうでしょうか。すべての項目に知見があって自信をもって発信できる委員はいないに等しいと思います。会議に参加しても解らない事が多いと辛いだけですし、是非ご検討ください。</li> <li>・ ケアラーアセスメント（各事業所ケアマネの協力）を実施・検証し、ケアラー支援の必要性を介護保険改正に訴えていく。</li> <li>・ ヤングケアラー問題では、自治体で把握できないのは精神障がいの疾病を抱えた親御さんです。できれば医療・福祉さらには自治体間の連携を作ることで対策につながると考えます。</li> </ul>		<p>今後とも、北海道と連携しながら施策を推進いたします。なお、ケアラー有識者会議等の関連会議の参加などの場において情報発信等に努めてまいります。</p> <p>栗山町ケアラー支援推進協議会の運営にあたっては、それぞれの専門領域の知見がある方が参加されておりますので、施策を進める上、よりその手腕を発揮していただけるよう運営方法については、検討いたします。</p> <p>ケアラーアセスメントは、ケアラーサポーターを中心としたアセスメントで試験運用する方向で協議中になります。今後施策を進める上で、貴見を参考にさせていただきます。</p>	

	<p>だきます。</p> <p>精神障がい者への支援は、親子関係である場合、ヤングケアラーの問題にもつながります。今後とも関連課とも対応を協議することから、協議にあたり貴見を参考にさせていただきます。</p>
--	--

## 7. 施策に関する追加・修正等についての意見

評価（意見・要望）	施策の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアラー（ヤング・シルバー・障がい者）の対象者と一緒に「炊き出しを楽しむ会」のようなものを立ち上げ（月／1～2回）、地域の人（ボランティア等）を含め一緒に作って楽しむ。その中で会話や現状を話してきたり、聴くことができる機会になると思います。1食くらい持ち帰りが出来て夕食を作らなくても家族と食事ができるといいね。「皆が一緒だよ」の空気づくり。地域を取り込み、巻き込んでいく事はお互いにとってプラスになります（私シルバー真っ只中にとっても同様です）</li> <li>・対象者を見つけることや協力をお願いする。職場や機関を指定するだけでは、本当の助け、お手伝いには時間がかかると思いました。地域ぐるみの立ち上がりと理解が最優先ではないでしょうか。ケアラーの認知度がアンケート調査で分かったことは、とても良かったと思います。これからの足がかりになりますが、職場や学校に重きを置くのは違うのではないのでしょうか。地域の人々やケアラー本人が心を開いて話せる。本人の悩みの問題が見えてきたり（成長の中で）解決や選択ができるようサポートできる環境づくりで（マイナスはプラスの転換、方向もあること、狭まれた視界から自分の人生の岐路を選んでほしいです）お手伝いできるのが理想と思います。現在の、狭まれた視界から、こんな方法、こんな道の可能性もあることを知ってほしい。将来に続く、総合的サポートができるといいですね。</li> <li>・全体的な感想です。方向性は良いと思います。期待しています。人材育成については、例えばボランティア団体が</li> </ul>	<p>地域住民の皆様と関わりを作りながら、ケアラーを「まち」全体で支える視点と、そのための支援活動は必要なことと捉えております。周知啓蒙活動、支援に参加が可能な町民の皆様や関係機関との連携は必要不可欠であり、今後のケアラー支援を継続していく中での重要なことと受け止めております。</p> <p>具体的な方策にあたっては、検討する上で貴見を参考にさせていただきます。</p> <p>地域を支える人材育成は、人口減少と高齢化の問題ともつながって</p>

<p>主になるとすれば年齢が高く要望どおりには活動できないと思います。あまり乗り気ではない。一般公募で有償にするか。悩ましいですね。ケアラーやヤングケアラーの方のお話を聞かせていただきたい。</p> <p>・ 条例ができたことで行政が積極的さらには迅速に対策を講じていただいていることに敬意を表します。ケアラー支援条例では、行政だけでなく町民・事業所などの役割を明記し、ケアラー問題は地域全体で取り組んでいく次代の大きな課題であると考えます。その点で目的達成のプロセスこそが重要であると考えますので社協などとの連携を深め事業を進めていただきたいと思います。</p>	<p>いることから、大きな課題と受け止めております。新たな人的資源の育成や掘り起しも検討いたします。</p> <p>ケアラー支援に関しては、町社会福祉協議会が活動の主体になっており、今後とも連携をしながら、施策を推進してまいります。</p>
--	--